

## 吉備最後の大型前方後円墳の実像が明らかに

史跡こうもり塚古墳

総社市上林

こうもり塚古墳は、岡山県総社市の南東部に位置する古墳時代後期（6世紀）の大型前方後円墳で、この時期としては県内最大、西日本でも屈指の規模を誇る古墳です。当センターでは、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業の一環として令和3年度から墳丘の発掘調査を行っており、これまでの調査で、古墳は二段築成で、残存墳長は約97mであること、埴輪や葺石は存在しないこと、前方部一段目は元の地形を削って造り出されていること、後円部の盛土は、質の異なる土を交互に盛り上げて互層状に構築していることなどが明らかになりました。

今年度は、より詳細な古墳の形や築造方法を明らかにすることを目的に、新たに6か所の調査区の発掘を行いました。調査の結果、古墳北西側の前方部一段目からくびれ部にかけては自然の地形にあまり手を加えず、古墳の整形を省略していることがわかりました（写真・図）。古墳の整形を省略した理由は定かではありませんが、古墳の北西側の丘陵には掘削が困難な岩の層が存在すること



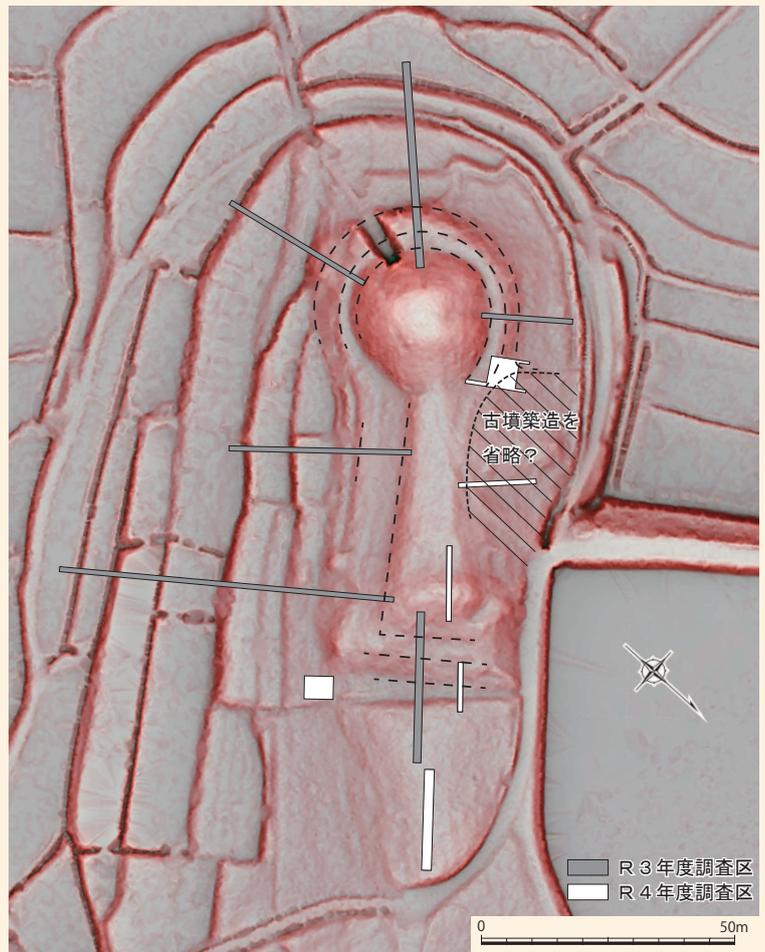
後円部北西側 整形停止箇所（トレンチ奥側）と自然の丘陵斜面（同手前側）（北から）

よこあなしきせきしつ  
 や、横穴式石室の周辺で行われたと考えられる葬送の儀式の時には見えない位置であること、古墳の北西側は狭い谷地形で、人目に触れることが少なかった可能性などがあることなどが考えられます。

また、古墳の南側約100mの地点には、後の奈良時代に幹線道路として整備された山陽道さんようどうが走っています。山陽道の起源については諸説ありますが、古墳時代後期にはその原形が存在していた可能性があり、北側を省略し南側を丁寧に築造している背景には、そうした立地が影響しているのかもしれませんが。

調査ではこのほか、前方部頂部の高まりが古墳に伴うこと、前方部二段目の墳丘盛土は後円部と同様に互層状の盛土で構築されていること、前方部前端は直線になることなどが明らかになりました。

調査成果の詳細については、今年度末に『史跡こうもり塚古墳総合調査報告書』として刊行する予定ですので、ご期待ください。  
 (藤井翔平)



史跡こうもり塚古墳と調査区配置図

## 史跡こうもり塚古墳360°動画



動画QRコード

当センターでは、史跡こうもり塚古墳の360°動画を公開しました。これは、こうもり塚古墳の周辺や横穴式石室の内部を全方位カメラで撮影した動画です。字幕や音声、画像で解説もあり、教材としてもご利用いただくことが可能です。

動画はセンター公式YouTubeチャンネルで公開中です。左のQRコードからアクセスできますので、ぜひご視聴ください。  
 (四田寛人)



史跡こうもり塚古墳 360°動画のスクリーンショット

一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、高尾宮ノ前遺跡の発掘調査を行っています。この遺跡は眼下に皿川を望む嵯峨山南東端の丘陵斜面に位置しています。

3～6月にかけて調査を行った1区では、後世の地形改変を大きく受けているものの、弥生時代から近世の遺構を確認することができました。特に比較的傾斜の緩やかな斜面上方を中心に、弥生時代中期と古墳時代後期の竪穴住居や段状遺構が見つかり、これらの時期に集落が営まれていたことが分かりました。こうした遺構は重複するものもあり、居住に適した平坦地に限られるなか、同じ場所で建て替えを繰り返して暮らしていた様子がうかがえます。この他に、中・近世の土坑や溝などとともに近世以降に使用された生活道も確認されており、断続的な土地利用の様相が明らかとなりました。（山口香織）



遺跡の位置（南西から）



重複する弥生時代と古墳時代の竪穴住居

一般国道429号改築工事に伴い、尾崎遺跡の発掘調査を実施しています。調査期間は令和4年5月から10月までの予定です。

尾崎遺跡は弥生時代から室町時代にかけての集落遺跡で、平成17・18年度に行われた鳥取自動車道建設に伴う調査では、弥生・古墳時代の竪穴住居や、古代（奈良～平安時代）・中世（鎌倉～室町時代）の掘立柱建物群などが発見されています。特に古代の掘立柱建物群は、円面硯（役所などで使用した土製の硯）や巡方（役人の帯飾り）、緑釉陶器、丹塗り土師器の出土から公的施設の可能性が考えられ注目されました。この度の調査では、そうした建物群の広がりや性格など新たな知見を得ることができるのではと期待されます。

7月末現在、掘立柱建物の柱穴が多数確認されつつあります。出土遺物は古代～中世の須恵器の杯や椀、土師器の皿や鍋、瓦質土器の羽釜、備前焼の播鉢、青磁の碗、土錘（魚を捕る網のおもり）、鉄釘、鉄滓などがあり、その他に縄文土器や弥生土器も少量見つかっています。（物部茂樹）



古代の柱穴（北東から）



中世の柱穴など（南から）

## 令和4年度企画展1・企画展関連講座

今年度前半の企画展として、当センター展示室にて「<sup>みなみやまじょうあと</sup>南山城跡とその時代」展を開催中です。南山城跡は岡山県倉敷市にあった戦国時代の山城跡です。この南山城跡について当センターが平成29年度から4か年をかけて発掘調査を行い、今年度の3月に発掘調査報告書が刊行されました。本企画展はこれに併せて、その調査成果をご紹介します。

発掘調査によって、千点を超える品々が見つかりました。企画展ではこれらからよりすぐった20点を展示しています。展示品には様々な儀礼に用いられたと考える<sup>はじき</sup>土師器の皿や、<sup>がしつ</sup>瓦質土器の鍋などがあり、城内で飲食が行われていたと考えられます。その他、美濃焼の天目茶碗や羽釜も見つかり、使者などをもてなすため、<sup>ちやれい</sup>茶礼が行われていたようです。加えて、刀の拵えに用いられる青銅製の<sup>おおせつぱ</sup>大切羽も見られます。その大きさからみて、身分の高い武士が刀を<sup>はいよう</sup>佩用する際に用いたものと推測できます。こうした展示品に加え、南山城跡の復元模型も展示しており、南山城跡を特徴づける連続堀切、畝状堅堀群など立体的にご覧いただけます。その他、会場のモニターでは南山城跡に関する動画を上映しています。

この企画展に併せ、南山城跡の発掘調査成果を紹介する、関連講座を6月25日（土曜日）に開催しました。会場に集まった皆さんは熱心に講座を聞いていただいただけでなく、発掘調査の際に作成した、<sup>どろい</sup>土層剥ぎ取りも見学していただきました。

本企画展は11月6日（日曜日）までとなっておりますので、ぜひご来館ください。（和田 剛）



企画展の様子



南山城跡の復元模型



企画展関連講座の様子



南山城跡の土層剥ぎ取りの解説

7月2日(土曜日)、県立美術館ホールを会場として、近年発掘調査が行われた遺跡を紹介する報告会を開催しました。今回は、中津貝塚(倉敷市)、斎富遺跡(赤磐市)、津山城跡(津山市)、高尾北ヤシキ遺跡(津山市)の4遺跡の報告を行い、98名の方が参加されました。

中津貝塚は、昔から全国的に著名な貝塚です。今回は、平成30年度～令和2年度にかけて行った確認調査の様子を倉敷市教育委員会の小野雅明氏にご報告いただきました。参加者からは、土坑墓に埋葬されていた人骨の詳細な報告は、調査時の臨場感が伝わったなどの感想がありました。

斎富遺跡は、以前の調査成果から古墳時代には渡来人との関わりが、奈良時代には公的施設の存在が想定されている遺跡です。赤磐市教育委員会の有賀祐史氏からは、令和元年度～3年度にかけて行った調査では、縄文時代晩期以降人々が住み続けた集落であり、古墳時代には製鉄や鍛冶などを営んでいたなどの成果が得られたとのご報告をいただきました。

津山城跡の報告は、津山市弥生の里文化財センターが令和元年度～2年度にかけて行った二の丸東側石垣の解体修理に伴う発掘調査の内容でした。豊島雪絵氏からは、入隅から北側では背面に石垣が築かれている一方で、南側では土塀の基礎と考えられる石垣が存在しているなどの調査成果から、石垣の構造やその構築過程などについて非常に重要な知見が得られたとのご報告がありました。

高尾北ヤシキ遺跡は、皿川の西岸に所在する遺跡で、当センターが令和元年度～3年度にかけて調査を行いました。報告した西村奏氏は、この遺跡について弥生時代から室町時代にかけて断続的に営まれた集落で、特に佐良山古墳群造営や中世の美作国佐良庄に関係する集落であった可能性を指摘しました。

(小嶋善邦)



報告会の様子

## 夏休み企画☆ワクワク古代体験！

令和4年7月26日(火曜日)～29日(金曜日)

岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピアを会場として開催しました。今回は勾玉づくり・鏡づくりといった古代体験と、倉敷市南山城跡のパネルや岡山市北区伊福定国前遺跡の出土品の展示を通して地域の歴史に親しんでいただくコーナーを用意しました。

4日間で、小中学生から大人まで555名の方にご参加いただきました。古代体験では、勾玉や鏡についての説明を聞き、体験に取り組んでいただきました。参加者からは「昔の人の技術に驚いた」「楽しく身近に昔のことを体験できた」という感想をいただき、歴史を体感していただけたようです。センターの恒例イベントとして、今後も開催したいと考えています。

(四田寛人)



勾玉づくり：古代人の気分でピース！



鏡づくり：熱心に鏡面を磨いています

## 令和4年度 埋蔵文化財担当職員研修会

6月9日（木曜日）、岡山県生涯学習センターにおいて県及び市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修会を行いました。

松江市文化スポーツ部文化財総合コーディネーターの丹羽野裕先生にわのひろしには「松江市、島根県教育委員会の文化財調査研究と活用の取り組み」と題して、文化財の積極的な活用例について、岡山大学文明動態学研究所教授の今津勝紀先生いまづかつのりには「文献学からみた古墳時代の吉備」と題して、最新の研究成果について御講演いただきました。



丹羽野先生



今津先生



会場の様子

## 令和4年度下半期の催し物案内

### 吉備の考古学講座

岡山県内の発掘調査成果をもとに、当センター職員による講義を行います。

日時・内容

第3回 令和4年12月11日（日曜日）午後1時30分～3時10分 弥生人のいのり

会場：県立図書館多目的ホール（岡山市北区丸の内） 定員：80名（事前申込が必要）

### 津島遺跡やよいまつり

津島遺跡で、火起こしや勾玉まがたまづくり、鏡づくり、古代米の収穫などを体験します。

日時：令和4年10月22・23日（土・日曜日） 午前10時～午後3時

会場：岡山県総合グラウンド（岡山市北区いずみ町）

津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアム

定員：なし（勾玉づくり、鏡づくり、火起こし体験は当日要申込）



古代米の収穫体験

### 吉備路ウォーク

吉備路の遺跡をめぐり、その歴史について学びます。

日時：令和4年12月3日（土曜日） 午前10時～午後3時

会場：吉備路 定員：30名（事前申込が必要）

### 史跡こうもり塚古墳シンポジウム

史跡こうもり塚古墳の調査成果と吉備路の魅力を紹介します。

日時：令和5年3月4日（土曜日） 午後1時～4時

会場：岡山県立美術館ホール（岡山市北区天神町） 定員：200名（事前申込が必要）

## 津島遺跡ボランティア募集

当センターでは、私たちと一緒に「史跡津島遺跡の魅力」や「弥生時代の暮らし」などを広く県民の方々に紹介するボランティアを募集しています。

主な活動内容は、センター主催の各種イベントで行う古代体験（火起こし・勾玉づくりなど）の補助や津島遺跡見学者への案内や説明です。特に津島遺跡を訪れる小学生へは、ボランティアが中心となって子どもたちと楽しく交流しながら遺跡のガイドをします。

また、センター主催の講座・講演会などに参加することで、弥生時代のみならず旧石器時代から江戸時代までの知見を得ることができます。

随時ボランティアを募集していますので、興味をお持ちになった方は、お気軽にご連絡ください。（小嶋善邦）

このような人におすすめじゃ！

- 子供たちに考古学や歴史を楽しく伝えたい方
- 考古学に興味がある方
- これから考古学を勉強したい方



### ボランティア活動の様子



竪穴住居の説明



やよい農園稲刈り



古代体験（勾玉づくり）補助

## 史跡備中国分尼寺跡指定100周年

史跡備中国分尼寺跡は総社市の南東部に位置し、奈良時代の天平13（741）年、聖武天皇が仏教による国家鎮護のため、諸国に建立を命じた寺院の一つです。

建物の礎石（柱の土台となる石）が往時の配置を示すなど良好であることから歴史的重要性が認められ、大正11（1922）年10月12日に国史跡の指定を受け、今年で100周年を迎えています。この大正11年の指定は、常陸国分尼寺跡（茨城県石岡市）、三河国分尼寺跡（愛知県豊川市）と同時であり、全国14か所の国史跡国分尼寺跡の中で最も早いものです。

現在の備中国分尼寺跡は、松林の中に金堂などの礎石がほぼ当時の状態で露出し、寺域を示す築地土塀の跡が土手状の高まりとなって残る様子が見られるなど、吉備の歴史を体感できる貴重な場となっています。これは、地域の財として長い間、守り伝えられてきたことを物語るものです。

一方で、建物などの正確な配置や規模・構造などに関する情報はなく、同史跡の魅力を広く伝えきれない一因とも考えられます。そこで、当センターでは今後、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業の一環として、備中国分尼寺跡の総合調査を計画しています。史跡の価値を明らかにし、地域の文化資源として活用していくことで、次の100年へ継承していきたいと思えます。（高田恭一郎）



地表面に残る金堂の礎石

## ◆ 火葬と土葬の墓地跡 (平安時代～江戸時代)

大村遺跡は、吉備中央町役場周辺から上竹方面にひろがる竹荘盆地の南西にある丘（標高364m）に位置します。平成4・5年に大村寺の南150mの地点で、岡山道建設に伴う発掘調査を行ったところ、南斜面から東斜面にかけての1,800㎡におよぶ範囲で、火葬や土葬のお墓が多く見つけられました。

平安時代のお墓は1基だけですが、鎌倉時代から室町時代には、火葬骨を納めた壺や甕など（蔵骨器）の周りに石を積み上げる「集石墓」が盛んにつくられました。この墓は本来、平安末期頃の『餓鬼草紙』に描かれた石積みのお墓を思わせる四角形の区画ですが、次々と接しながら増えたため、一帯は石だらけの状態になっていました。蔵骨器には、備前焼や備中南部で生産された亀山焼などが使われ、全部で108個体も出土しました。他にも墓標や供養塔とみられる、281基以上の五輪塔や22基以上の宝篋印塔が散乱あるいは寄せ集められていました。これらの石塔は、ほとんどが備中中央部で採れる結晶質石灰岩（粉末石）でできています。

やがて室町時代後半になると集石墓は減少し、火葬をやめて替わって四角や丸い形の穴を掘る土葬のお墓が江戸時代まで210基もつくられ続けました。このように当遺跡は500年以上の間、墓地として続いており、その期間が、建保3（1215）年再興と伝わり、歴代備中松山藩主ともゆかりのある大村寺の時期と重なることから、お寺と関係があった人々が埋葬されたと考えています。

県内でこれほどの墓地跡の調査例は珍しく、鎌倉時代から江戸時代の埋葬方法や、その移り変わりを知ることのできるたいへん貴重な資料となりました。



集石墓（中央）と列をなす土葬墓（手前）



集石墓の様子（一部土葬墓）



梵字や仏像のある五輪塔

(柴田英樹)



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

<https://www.facebook.com/okayama.pref.kodai>

◎ 交通案内 JR 山陽本線庭瀬駅下車徒歩 40 分

JR 桃太郎線吉備津駅下車徒歩 25 分

◎ 業務時間 AM8:30～PM5:15

◎ 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

◎ 展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。

ただし、臨時に休館することがあります。